

毎日おまんこシテくれる
オナホアイドルと同棲しませんか？

	トラック1
紗綾	「ん……んっ……んん……」
紗綾	「ふああゝゝゝ……んゝゝむにやむにや……ん、 んん……？　もう朝あ……？　ううう……まだ眠 い、けど……んっ……」
紗綾	「プロデューサーさんはっ……」
紗綾	「あ、えへへゝゝゝ　プロデューサーさんいたあゝ はあゝゝゝ　今日も寝顔可愛いなあゝゝゝ」
紗綾	「昨日も夜遅くまでお仕事してたもんね……いつも 私の為に頑張ってくれてありがとうゝ　ん…… ちゅゝ」
紗綾	「ちゅゝ　ちゅ……ちゅゝ　って、あれ？　お耳に チュウしても起きない。ちゅっ、ちゅっ…… ちゅっゝ　耳たぶに……ちゅゝ　ちゅ、ちゅゝ」
紗綾	「耳の中にもお……ちゅゝ　……ちゅゝ　んん…… まだ反応なし……んん……ちゅっ、ちゅっ……ゝ むむゝ……起きないなゝ……」
紗綾	「いつもならこれで起きてくれるのに……今日は一 段と眠りが深いかも……」
紗綾	「毎日いっぱい頑張ってくれてるから、もう少し寝 かせてあげたいな……でも、ずっとなってわけには いかないし」

紗綾 「せめて気持ち良く起きれるように、私、頑張りますね♪ プロデューサーさん♪」

紗綾 「ん、しょ♪ ん、しょ♪」

紗綾 「わあ♪ やっぱりおちんぽ、すっごく元気になってる♪ 朝はいつもそうですもんね♪ はあ♪ 大きくて遅しくて♪ 私の大好きなおちんぽお♪」

紗綾 「パンツ越しでも……すん♪ すんすん♪ すううううう♪ はあうううう♪ はうううう♪ おちんぽの匂いだけでエッチな気分になっちゃうう♪」

紗綾 「こんな大きいおちんぽが、いつもここに……おまんこに入ってくるなんて……意識するだけで濡れちゃうよお♪」

紗綾 「あ、おちんぽパンツの中で窮屈そう♪ プロデューサーさんったら、ゆうべは我慢してたのかな？」

紗綾 「なら私が楽にしてあげないと♪ こうやってズボンの上から♪ そっれ♪ おちんぽもみもみ♪ おちんぽもみもみ♪」

紗綾 「えへへ♪ せっかく同棲までしてるんだし、たまには紗綾に甘えてワガママ言ってくれてもいいんですよ？」

紗綾

「朝でも、お昼でも、もちろん夜でも♪ 私はいつでもエッチ大歓迎なんですから♪」

紗綾

「まあでも、プロデューサーさんは照れ屋ですもんね♪ 仕方ないから、今日も私がおちんぽのお世話してあげちゃいます♪」

紗綾

「まずはおちんぽを出してっ♪」

紗綾

「わぁ♪ おちんぽさん、おはようございます♪ 今日もおつきくて、蒸れてくさくって♪ えへへっ♪ 可愛いですうっ♪ んっちゅっ♪ ちゅ、ちゅっ♪ ペろ……れろ……れろっ、れろ……れろろ……ちゅ♪」

紗綾

「あううっ♪ 朝一番のムレムレちんぽにキスしちゃった♪ はふうっ♪ ピクピクっしててえっ♪ もっとして欲しいんですか？ 欲張りさんですねっ♪」

紗綾

「んっちゅっ♪ れろ……れろ、ぴちやっ……レロお……ちゅっ、れろ、れろ……んっ♪」

紗綾

「そんな欲張りなおちんぽはっ、先っぽの方を、ちゅっ♪ 虐めてあげますね♪ ん……ちゅ、アイドルの舌で左右にいっ♪ れっろれろれろれろれろれろお♪ れろれろれろれろれろれろお♪」

紗綾

「んう？ ん、れろろ♪ じゅるる♪ ふふ♪ おちんぽから透明なお汁が出てきました♪ あゝん♪ ちゅ♪ じゅるる♪ じゅるっ♪ ん、いいですよ♪ 全部飲んであげますから、我慢しないで……んっ、ちゅ……ちゅるっ……じゅりゅりゅ♪ じゅるる♪ ちゅ……ん、全部出してくださいね♪ チュルッ、ちゅううっ……ちゅう……♪」

紗綾

「はあ♪ んん♪ パンツの中で蒸れてたから、すっごく濃くって……臭くって……ん、おちんぽに付いたチンカスもお♪ じゅるるっ！ じゅりゅ！ ん、んん♪ おいしくてえ♪ これえ♪ いくらでも舐められますう♪ ちゅ♪ ぴちやっ……ぴちや、ちゅぶ、ぶちゅ……んっんっ」

紗綾

「おちんぽの竿の方にも、舌を伸ばしてえ♪」

紗綾

「れろろ♪ れろれろ♪ れろれろれろれろれりゅ♪ ちゅ♪ ペちやっ、ぴちやっ……ちゅ、ちゅうっ……れろっ……！ ちゅっぶっちゅぶ、くっちゅっ。はああっ……♪ 勃起おちんぽお♪ おいひいれすう♪ んろちゅ♪ れろ……れる……れるう……ぶっちゅっ、ぴちやっ、ぴちや、ぴちや……」

紗綾

「あは♪ おちんぽぴゅってお漏らししてる♪
眠ってても、ちゃんと感じてくれてるんですね…
…ああん♪ 可愛い♪ とっても可愛いよお♪
はあ、もっともっつとしてあげちゃいます
♪」

紗綾

「はむっ♪ じゅる！ じゅるるっ！ んちゅ♪
れろ、れろれろ……れろっ、レロ……♪ ぴ
ちやつ、ぴちや、ぴちや……ふう……♪ おちん
ぽおいしい♪ 大好きですう♪ おちんぽ♪ お
ちんぽお♪」

紗綾

「んっ、プロデューサーさん♪ えっちな夢見てま
すか？ 私とのエッチな夢、見てほひいれす…
…つれろ……れろっ、ぴちやつ、ぴちやつ、く
ちゅ……」

紗綾

「れろれろ♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅぶ♪ れろ
れろ♪ ん、ここまでしても起きないなら……も
うちよっただけ大胆におちんぽ啜えておしゃぶり
しちやつても大丈夫かな？ ふふ♪ ではおちん
ぽ失礼しまーす♪」

紗綾

「は……む♪ んちゅ♪ じゅぶっ！ ん、ちゅ
♪ ちゅぶっ！ ん、ん、んん♪ ん、れろれろ
……じゅぶぶっ！ ん♪ 私のおくひ、あったか
いれふか？ ん、ん、ん、ん♪」

紗綾

「ん、む……あむっ……ぐちゅっ！　ぐちゅっぐちゅっぐちゅっ！　ずちゅっずちゅっ！　じゅる！　じゅぷっ！　ん、くちゅっ……ぐちゅっ……れろれろ……ぐちゅっ！　はあっ、はあ、はああ♪」

紗綾

「ああ……ひゅーい、おちんぽお♪　お口に入りきらないれふ♪　ぢゆるっ……じゅるっ、じゅるうっ！　ぐちゅっ……ぬちゅっ！　ぬぽっ、ぬっぷっ、ぐちゅっ……んんん……！」

紗綾

「おしゃぶりひてるだけで、わたひ、ヘンな気分になって♪　ん、れもお♪　プロデューサーひゃんのおちんぽが、えっちな形してるのがいけないんれふよ？　いつもわたひを誘惑ひてえ♪」

紗綾

「んっ、ん、ん♪　ん、ん、ん♪　わたし、アイドルなのにい、んじゅっ！　じゅりゅっ！　れろれろ……れろれろれろれろちゅ♪　じゅぷっ！　ん、朝から、おちんぽ啜えて、おしゃぶりして……んん♪　いけないのにい♪」

紗綾

「んぷっ！　ん、んん♪　じゅりゅ♪　れるれる♪　じゅる♪　じゅるる♪　んっ♪　ぷはっ！　はあ、はあ……「めんなさい、えっちなアイドルで「めんなさい……でも、我慢できないのお♪　んっ、はむっ……んん！　ずちゅっ！　ぬちゅっ、ぬちゅっ、ぬちゅ……んううっ♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ ああん♪ 男らしいおちんぽお♪
くさくさいチンカスおちんぽお♪ んちゅ♪
じゅりゅじゅりゅ♪ んん♪ 夢中になっちゃう
おちんぽお♪ れろれろっ、れろ……れろお！
ずちゅっ！ ぐちゅっぐちゅっぐちゅっ！ じゅ
るるる♪」

紗綾

「ん！？ ん、ん、んん！ ぷはっ！ はあ、
はあ……おちんぽビクビクして……おちんぽミル
ク出したいのかな？ んっ、れっ♪ れろれろ
れろれろ♪ ん、出ひて、出ひてくらひゃい…
…っ！ じゅるっ！ じゅぷぷっ！ じゅる♪
れろれろ♪ ん、ちゅ♪ ちゅぷっ！ ん、
んー♪ ぷはあ♪ はあ、はあ♪」

紗綾

「さあ♪ プロデューサーさん♪ ここです♪ 私
のお口に♪ アイドルのお口に♪ おちんぽ
ぴゅっぴゅ♪ おちんぽぴゅっぴゅ♪ ぢゅ
るっ、ぢゅるるっ！ ぢゅるるるうううっ♪
っ♪」

紗綾

「んっ！？ んむうっ！！ ん、むううっ……んん
んんっ！ んッ！？ んっ、んんっ……！ ん
むう……！ じゅぷっ！ じゅるるるっ！ ん、
ぷはっ！？ い、いっばいい……こんなにたくさ
ん……んむう！？」

紗綾

「んぷっ……次々口の中に……いつふあい……！
じゅる！　じゅりゅりゅ！　んぶうう！　ん、
しゅごいい……！　おひんぽみりゆくしゅご
いい！　あっ、あっ、んん！？　まだ出て！
やっ！　きやつ！？　ん、ッんううっ……！」

紗綾

「んん！　や、零れちゃやつ！　ん、んん！　全部
飲むのお♪　はぶ♪　ごくっ！　ごくっ！　ん、
ごくっ！　ごくっ！　ごくっ！　ごくっ！　……
ん、んん……♪　ぷはあっ！　はあ、はあ♪」

紗綾

「あうう♪　あうあううう♪　おちんぽミルクネバ
ネバですよお♪　んん♪　お口が精液の香りで
いっぱい♪　ふふ、驚くだろうなあ♪　すやすや
寝てる間にアイドルのお口にぴゅっぴゅしちゃっ
たなんて♪」

紗綾

「でも、いいですよ？　恋人同士なんですから♪
すうう……はあ……♪　このクセの強い
おちんぽの臭い♪　色も濃くって♪　ああ♪
真っ白なのが出ましたね♪　健康な証です♪」

紗綾

「んっ、さっき飲みきれなかった分が、まだお口の
中に絡んで……えう……うまく喋れません。せっ
かくプロデューサーさんが出してくれた精液です
から……ペって吐き出しちゃうのはもったいない
ですし……大好きな人の、赤ちゃんの種……」

紗綾

「だから……感謝しながら、いただきますね。ああ♪ プロデューサーさん……好きです、大好きです……愛してます♪ って、あ♪ どうせなら「く」くって飲む音、聞かせてあげます♪」

紗綾

「では、ん♪ ごくっ、ごく、ごく、ごく……ん、んん♪ ごくんっ、ごきゅっ。んんん♪ ぷああ……おいしいですう♪ この味、やみつきになっちゃいましゅう♪ はふう♪ ん、ごく、ごく、ごく、ごく♪ はふう♪ おちんぽミルク、ごちそうさまでした♪」

紗綾

「……って、あ、起こしちゃいましたか？ ふふ、おはよう」ざいます♪」

紗綾

「はい♪ あなたの紗綾ですよ♪ 起きるのが遅かったので先におちんぽいただいちやいました♪」

紗綾

「ふえ？ そんな！ プロデューサーさんのおちんぽは汚くなんかないですよ！ とっても可愛くて綺麗で、それにおいしいですから♪ もっとおちんぽに自信持つてください♪」

紗綾

「って、えへへ♪ 朝から何言ってるんでしょう♪ 恥ずかしくなってきたちゃいました♪ でも、これだけは言わせてくださいね？」

紗綾

「プロデューサーさん♪ 大好きです♪ 世界で一番、だい、だい、だいっ、だいっ！ だぁゝいき♪」

紗綾

「えへへ♪ 今日もいっぱい♪ ラブラブ全開で頑張ります♪」

	トラック2
紗綾	「すうゝ、はあゝ……すうゝ、はあゝ……」
紗綾	「あつ、プロデューサーさん！ えへへ……見られちゃいましたね。はい。深呼吸、しました。やっぱり緊張しちやってるみたいです」
紗綾	「生まれて初めての単独ドームライブ……私なんかが一人でドームを埋めちゃうなんて、今でも信じられませんよ」
紗綾	「初めてのグラビア撮影、初めてのチエキ会、握手会にテレビ出演。今まで色んな経験をしてきましたけど、やっぱりドームは一番の夢です。アイドルを目指すと決めた時からの夢」
紗綾	「あ、えへへ♪ 大丈夫ですよ？ 緊張してますけど、心配はしてません。だって、いつだってプロデューサーさんが私のそばに、隣にいてくれますから♪」
紗綾	「今日だって、とびっきり素敵な思い出になるんだろうなって予感してます。いえ、予感じゃなくて確信ですね♪ 私はプロデューサーさんが見ていてくれるならどこまでも輝けます♪」
紗綾	「ただ……緊張はしちゃいますから、もう少しだけ、ほんの少しだけ勇気を分けて欲しいんです。ダメ、ですか？」

紗綾

「はふう♪ あったかい♪ んっ……まだ、開演まで時間がありますよね？ 今の内にプロデューサーさんのぬくもりを感じさせてください」

紗綾

「んん♪ すりすり〜♪ すりすり〜♪ えへへ〜♪ 全身にプロデューサーさんの匂いを移しておかなきゃ♪ すりすり〜♪ すりすり〜♪」

紗綾

「プロデューサーさん♪ 心臓、ドキドキしてますよ？ って、きっと私もドキドキしちゃってますよね……あううう♪ 恥ずかしいですう♪」

紗綾

「大好きな人とぴったりくっついてると……興奮して、気持ちが抑えきれなくなっちゃいます。好き、大好きって……心臓が高鳴って、全身が花開くみたいで」

紗綾

「プロデューサーさんが欲しいって思っちゃう。もっとプロデューサーさんでいっぱいになりたいって思っちゃいます♪」

紗綾

「だからですね？ キス、してもいいですか？ したいです、ちゅって。いっぱいキス♪」

紗綾

「んっ、ちゅっ……チュッ、ちゅ……ちゅぷっ……♪ はあ♪ キス嬉しいです♪ もっと♪ ん、ちゅっ、ちゅっ、んん♪ んあ……もっとください、キスう♪ もっとお♪」

紗綾

「ん、ちゅ♪ れろ……れろ……んちゅっ、あむ、ちゅ……ちゅ、ぴちゅっ……プロデューサーひゃん……舌、出ひてえ♪ あむっ、ちゅ♪ じゅる♪ じゅるるる♪ んぷっ！ はああ……おいひいれす♪」

紗綾

「しゅき……ちゅきい♪ えっちなキスう♪ もっろお♪ ちゅ♪ れる、れる、れるれる……れろ……れる。くちゅっ、チュツ、ちゅうっ……ちゅっ、ちゅっ、チュ……っ」

紗綾

「ん……ぷあっ……えへへ♪ 涎が垂れちゃいましたね。れろ、じゅるる♪ ん、ごくっ♪ ごくっ♪ はあぁゝゝ♪ とつてもエッチで厭らしくて、おいしい♪」

紗綾

「はあ、はあ……♪ んん♪ 本番前なのにい♪ こんな、おいしい涎飲まされたらあ……♪ んん♪ おまんこ火照ってえ♪ おちんぽ欲しくなっちゃいますよお♪」

紗綾

「もっと近づきたい、もっと触れ合いたい。一つになりたい♪ ね、プロデューサーさん♪ この衣装、こうやって指でズラせば……」

紗綾

「できちゃうんですよ？ えっち♪」

紗綾

「もちろん、アイドルが本番前になんて、イケナイ事ですけど……でも、こんな火照った体じゃ、お歌もダンスも上手にできませんから……」

紗綾

「今だけ。今だけは紗綾を独り占めしてください♪
大好きな人のおちんぽで、紗綾のおまんこ、ぐ
ちゅ濡れの欲しがりおまんこ♪ 満たしてください♪」

紗綾

「あああっ……そ、そうです、そこです……あっ、
私のおまんこっ……もう準備、できてますから♪
おまんこトロットロに熟してますからあ♪ そ
のまま、アイドルのちっちゃなおまんこ穴に、
おっきなおちんぽ来てください♪」

紗綾

「早くう♪ あ！ そうです、そのまま！
んっ！？ あ、あ、あ、ああ♪ おちんぽ来ます
♪ おちんぽ来ちゃいまうう♪ あ、あ、あ、ん
ああんっ♪ やっ♪ あ、ああっ♪ 入っ、
たあ♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ あう、う、うう♪ んへ♪ えへ
へ♪ お腹がおちんぽでいっぱい♪ うう♪
はふう♪」

紗綾

「おちんぽお♪ 勃起おちんぽお、紗綾のおまんこ
に来てえ♪ ああっ、すごいですう♪ おまんこ
気持ちいい♪ 気持ちいいよお♪」

紗綾

「ん、んああ♪ 記念すべき日にプロデューサーさ
んと生えっちい♪ ん、ふえ？ えへへ♪ は
い、もちろんゴムなんていりませんよ？ こんな
大切なエッチにゴムなんて無粋です♪」

紗綾

「それに、んん♪ ライブ中にプロデューサーさんの事、感じていたいですから♪ このままおまんこに膣中出して、ライブ中でも子宮でプロデューサーさんの事、感じさせてください♪」

紗綾

「ひゃんっ!? やっ! きゃん♪ はうう♪ いきなり腰、激しくて♪ んひゃ♪ あ、あ、ああ♪ ぐちゅっ、ぐちゅってえ♪ おまんこかき回されてえ♪ あ、やあ♪ もっとお♪ もっとください♪ おちんぽお♪ もっとお♪」

紗綾

「んん、ふっ、ふ、あ……あ、あ、あん! あっ……♪ だ、だめえ♪ おっきな声でちゃう♪」

紗綾

「あ、あ、あ、ああん♪ こ、ここお♪ 楽屋なのにい♪ 外に人がいるのにい♪ ああ♪ だめ、ダメダメダメえ♪ 声出ちゃうっ! う、うう♪ おちんぽ気持ち良くて……んん♪ 我慢できないい! んああっ、ああっ、ああ、んんっ!」

紗綾

「はあ、はあ♪ んん! ち、違いますう! 紗綾がエッチなんじゃなく、ってえ……ん、あああんっ♪ プロデューサーさんがエッチ、上手すぎるんですう! う、上手すぎてえ♪ ああっ、あっ、んあああっ!」

紗綾

「う、嘘みたいを感じちゃって……ひやわあっ！
んあ♪ あ、ああん♪ さつきからずーっと、細
かくイッてるんです！ おまんこずーっとイッて
♪ んああ♪ こんな、声、漏れちゃう♪
うう、漏れちゃいますう♪」

紗綾

「ああ♪ おちんぽお♪ おちんぽおちんぽお♪
プロデューサーさんのおちんぽ好き♪ おちん
ぽ大好き♪ ん、んん♪ んあ♪ あ、あ、
ああ♪ 大好きな人のおちんぽお♪ すっごく気
持ちいいですう♪」

紗綾

「んはっ！ はあ、はあ♪ おちんぽお♪ ああん
♪ アイドルのおまんこゴリゴリ擦ってえ♪
やあ♪ 子宮の奥からエッチなお汁かき出され
ちゃいますう♪」

紗綾

「んあっ！？ は ひやううっ！？ お、おまん
こお♪ や、やあ♪ おまんこのヒダヒダがにゅ
るにゅる絡みついてえ！ ん、んんん！！ ん
ああ！ あ、あ、あ、っあああっ！ やっ！ ダ
メですっ！ おちんぽ欲しがってる♪ おまんこ
がおちんぽオネダリしちゃってますう♪」

紗綾

「やっ！ は、はひい♪ お、お、おお♪ おちん
ぽ、そんなに激しく動いたらあ♪ んあああっ！
わ、私……ひとたまりもありませんっ！ ん
んっっ！」

紗綾

「イツ……イツ、ちゃううっ！ いっぱい、いっぱいっ！ 大好きなプロデューサーさんの、大好きなおちんぽでえ♪ あ、ああっ！ イツちゃう！ イっちゃいますよお！」

紗綾

「ライブ前なのにい♪ 皆のアイドルなのにい♪ 本気でイツちやいますう♪ 下品に股広げながらアイドルアクメきめちやいますう♪」

紗綾

「お、おおお♪ お、お、おお♪ イく……！ イくっ、イクうっ！ おちんぽでイグ！ おちんぽでイツひやうう！ んああ！ 好き、好き好き！ プロデューサーさん好きいい！！ おちんぽ大好きいい！！」

紗綾

「ンッ！？ んゝゝゝ！ 来ちゃう！ おっきいの来る、くるう！ イツ……くっ、イクう！ おまんこイク！ アイドルおまんこ伊っちゃうううう！ んあああっ♪ お、お、お、お、お♪ イグイグイグ！ イッグうううう！！」

紗綾

「んひやあああ！！??」

紗綾

「ひやわああっ！ あ、あ、あ、あああ！！ お、おまんこ伊ってまひゅっ！ お、お、お、お、お、お♪ おまんこおお♪ おまんこ伊きゅうう♪ おまんこおお♪ おまんこやらあ♪ き、きもひいいれしゅううう♪ んあ、あ、あああ……♪ お、お、おおお♪」

紗綾

「はあ、はあっ、はあ、はあ♪ はひゅうう♪
う、ううう……ぐ、ごめんなさいい……今のは、
さ、流石に声が大きすぎましたあ……だ、大丈夫
でしょうか？ 誰にも、ん、聞こえてません、よ
ね？」

紗綾

「はあ、はあ……ん、誰も来ない……かな……？
はあぁ……良かったぁ……えへへ♪ これで、
まだまだ続けられますね♪」

紗綾

「え？ そりやそうですよ。だって、まだおまんこ
に膣中出ししてもらってないんですから♪ 私の
お腹がおちんぽミルクでたぶたぶになるまでセッ
クスしてもらうんです♪」

紗綾

「それに♪ 私のおまんこ……今イッたばかりで、
トロットロのスケベおまんこになってますから
♪」

紗綾

「ほら、見てください♪ 綺麗なピンク色のヒダヒ
ダがひくひくして、アイドルのおまんこ穴からと
ろろって、エッチなお汁垂れちゃって……えへへ
♪ とってもスケベですう♪」

紗綾

「皆が憧れる、現役アイドルの生おまんこを独り占
めできるのは、プロデューサーさんだけの特権で
すよ？」

紗綾

「だ・か・ら♪ 今はただ欲望のままに、好きなだけ現役アイドルの発情おまんこ、犯してください♪」

紗綾

「ライブ中もおちんぽミルクを感じられるように、欲しがりなスケベおまんこを、ぷりぷりザーメンで真っ白に染め上げてください♪」

紗綾

「さあ、プロデューサーさん♪ キスしながらおちんぽ動いて♪ お口もおまんこも、プロデューサーさんと繋がりながらエッチしたいです♪」

紗綾

「はぷっ♪ ちゅ♪ んん♪ ちゅ♪ ちゅ、れろれろ……ちゅ♪ んん♪ ん、プロデューサーさん、おちんぽ激ひい♪ ん、んちゅ♪ じゅぷっ！ ん、じゅる……ちゅ♪ ちゅぷ♪ じゅりゅ♪ ん、ちゅ♪ ちゅ♪」

紗綾

「ぷはあ！ はあ、ん♪ んああ♪ お、おまんこお♪ キスしながらのおまんこセックしゅう♪ んああ♪ あ、ああ♪ しゅごいれす♪ これえ♪ しゅごいれすよお♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ プ、プロデューサーさあん♪ お、おっぱいも触りながら、ん、んん♪ エッチしてえ♪ 私のスケベなおっぱいいい♪ いっぱいもみもみしてください♪」

紗綾

「あ、あああ！！　そ、そんな！　いきなり乳首い♪　ん、んんん♪　ひやわっ！　はあ♪　んん♪　あ、ああん♪　え、えへへ♪　すっごいエッチですう♪　エッチい♪　えっちえっちい♪」

紗綾

「でもいいんですう♪　だってえ♪　私のおっぱいはプロデューサーさんに揉んでもらう為に大きくなっただからですからあ♪」

紗綾

「プロデューサーさんだけが触れるんです♪　どれだけファンの人たちに見られても、触れるのはプロデューサーさんだけ♪」

紗綾

「だからもつと触ってください♪　もつとお♪　清纯派アイドルなのにい♪　下品に垂れたスケベおっぱいい♪　欲しがりなおっぱいい♪　指が沈んで見えなくなるくらい激しく求めてくださいい♪」

紗綾

「ひゃん♪　やあ♪　プ、プロデューサーさんったらあ♪　んあ、あ、あ、ああ♪　赤ちゃんみたいにい♪　やん♪　おっぱい求めてえ♪　ああ♪　嬉しい♪　嬉しいですう♪」

紗綾

「もつと来てえ♪　もつとお♪　おっぱいの形変わっちゃうくらい強く揉んでえ♪　大好きなプロデューサーさんにならいいんですう♪　だってえ♪　私のアイドルおっぱいはプロデューサーさんの物なんですからあ♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ ああん♪ プロデューサーさあん♪ 好きい♪ すきすきすきすきい♪ おっぱいに夢中になる可愛い姿が大好きなんですう♪」

紗綾

「んああ♪ イイレすう♪ おっぱい揉まれながらおまんこ突かれてえ♪ ひゃわあ！？ ん、やあん♪ 子宮う、刺さってますう♪ おちんぽ赤ちゃんのお部屋に入っちゃいますう♪」

紗綾

「はあ、ん、はあ♪ プロデューサーさうん♪ キスう♪ はむ♪ ちゅ♪ んちゅ♪ ちゅるる♪ ぷはあ！ はあ、ん、ああん♪ お、おまんこお♪ このままだとまたいつひやいましたしゅ♪ お、お、おおお♪ おまんこおおお♪ おまんこ気持ちいい♪ おまんこイイんですう♪」

紗綾

「や、やらあ♪ アイドルのイキ顔見られるの恥ずかしいれすよお♪ ん、んん！ んああ♪ あ、あ、ああああ♪ はあ、はあ……♪ んん♪ んみゅうううう……！」

紗綾

「はあ、はあ♪ んん♪ えへへ♪ イキ顔恥ずかしいですから、お耳の傍に来ちゃいましたあ♪ ん、あ♪ やあん♪」

紗綾

「んへへ♪ これなら、んん♪ どれだけエッチな顔しても、大丈夫……って、ひゃわあ！？」

紗綾

「はあ、はあ、んん♪ わ、わたひも、んあああ♪
イ、イキましゅうう！ イ、イグう！ あ、
ああ！ お、お願いれしゅう！ プ、プロデュ―
サーさんも一緒にいい！！ あ、あ、あ、
あああ！！ イ、イグウ！ イグイグイグイグ！
イツぐうううううう！！؟؟」

紗綾

「んひやああああ！！」

紗綾

「お、おおお♪ ああ、ひやあああつ……あづいい
♪ おまんごおお♪ おちんぽみりゆく一杯れえ
♪ お、おおおお♪ んっ、んんっ！ は
ひいい♪ わかりましゅう……おちんぽ震えてえ
……あつ♪ 出てるっ、出てりゆのおお♪」

紗綾

「はあ、はあ……♪ んん♪ はひい♪ そのま
まあ♪ そのまま奥に出ひてくださしい♪
あ、ああん♪ そ、その調子でえ……♪ おちん
ぽぴゅっぴゅ♪ おちんぽぴゅっぴゅ……♪
んっ……やあん♪ また出たあ♪ おちんぽミ
ルクう♪ 子宮に直接ぴゅっぴゅきてますう♪」

紗綾

「んん♪ ああつ、はあ……あ、あ、んああ♪ あ
うう♪ あうあうう♪ こ、こんなに沢山……え
へへ♪ すっごく嬉しいですう♪」

紗綾

「あ……や、ダメ……抜いたら溢れて、出てきちゃ
いますよお♪ もう少しこのまま、おちんぽおま
んこに入れててください♪ お願いします♪」

紗綾

「はあっ……ん♪ えへへ♪ おまんこタプタプして……ん♪ プロデューサーさんの熱が体の内から感じられて……うん♪ これ、すっごく安心します♪ 一人じゃないんだって、私にはプロデューサーさんがいるんだって♪ 例えステージ上には私しかいなくても、これなら心は一緒だって分かるんです♪」

紗綾

「えへへ♪ こゝんな幸せな気分でライブに臨めるなんて初めてです♪ 絶対に最高のライブになるんだって確信できます♪」

紗綾

「だからプロデューサーさん♪ 今日は私の全部出し切ってきますから、しっかりと見守ってくださいね♪」

	トラック3
紗綾	「プロデューサーさんっ！」
紗綾	「や、やりました！ 私、出来ました！ ちゃんとドームライブ成功させることができましたあ！」
紗綾	「やったあ！ やったやったやった！ やったああ！！！」
紗綾	「ああ！！ 嬉しい！ 嬉しい嬉しい！！ 嬉しいですうう！！ プロデューサーさあん！！ ここまでこれたのもプロデューサーさんのおかげです！ プロデューサーさんがいなかったら絶対ここまで来れてません！ 成功出来てません！ 全部全部プロデューサーさんのおかげですうう！！！」
紗綾	「本当に……！ ほんとうに！ 嬉しくって！ 幸せで！ んん♪ むぎゅう♪」
紗綾	「って、あ、ここで抱き着いちやダメですよ……ごめんなさい……で、でも、まだ全然甘え足りないから……」
紗綾	「あ、あのっ、プロデューサーさん……ちよっこっちにに来てもらっていいですか？ はい。舞台袖じゃ他の人の目もありますから」

紗綾

「こっち。こっちです。控室には誰もいませんから……少しだけ。この成功のご褒美に、少しだけ時間をください……お願いします」

紗綾

「はふう……これで二人つきり……ですね♪」

紗綾

「んーっ！ プロデューサーさあーん！ やりました！ やりましたあー！」

紗綾

「大成功でしたー！ って、あっ！ ご、ごめんなさい！ 私ったら、汗いっぱいいてるのに思いつき抱きついちゃって。でも、どうしてもこの喜びを分かち合いたくて……！」

紗綾

「あのう……感謝をこめてキス、してもいいですか？ えへへ♪ ダメって言ってもしちやいます。んー♪」

紗綾

「ちゅっ♪ ちゅっ、ちゅっ……ちゅ♪ ああんもう♪ 本当に幸せです♪ 愛する人とここまでのぼってこれたこと。世界で一番大好きなプロデューサーさんに、ここまで連れてきてもらったこと」

紗綾

「今世界で一番幸せなのって、きっと私達二人ですよ。ね。ああ♪ まだ胸がとくんとくんって高鳴ってます♪」

紗綾

「んゝちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ はあゝ♪ プロデ
ューサーさん、プロデューサーさあん♪ 好き…
…スキスキい♪ 大好きい♪ 愛してますう♪」

紗綾

「私の、世界で一番大切な人。ちゅ♪ ちゅっ♪
……ん？」

紗綾

「あ、プロデューサーさん……あのう、おつきく
なってますよ？ その、おちんぽが……えへへ♪
ライブ前、あんなにいっぱいエッチしたのに♪
んもう♪ スケベなんですからあ♪」

紗綾

「え？ あ、別に嫌じゃないです♪ 私も胸が高
鳴って興奮しちゃってますし♪ 今すぐここでエ
ッチしたいです♪」

紗綾

「ただですね？ 今の私ちよっと汗くさいから…
…って、ふえ？ 私の汗の匂いがいいんですか？
はう、はううう♪ ちよっと変態ちつくです
よおゝ♪」

紗綾

「って、ひやわあ！？ やっ！ ちよ、プ、プロデ
ューサーさん！？ ダ、ダメです！ そんな、脇
に顔うずめちゃ……や、あ、ああん♪」

紗綾

「ほ、本当にダメですってばあ！ 脇い、今汗だく
で臭いからあ……！ ん、ひうう！？ クンカク
ンカって……あううう……あうあううう……
プロデューサーさんのスケベえ♪」

紗綾

「ん、はあ、はあ♪ あん♪ ペロペロ、んん♪
だめえ♪ ん、あ、やん♪ 脇汗舐めちゃ……
ひゃ！ やん！ こ、これ、くすぐったいのと氣
持ちいいのが混じってえ……♪ ん、んああ♪
脇い……お、おまんこみたいになってるう♪ 脇
汗じゅるじゅるされてどんだん脇汁出てきちゃい
ますよおお♪」

紗綾

「んああ♪ あ、あ、あ、ああ♪ プロデュー
サーさうん♪ はあ、はあ♪ 紗綾のお♪ 現役
アイドルの脇汗え♪ おいしいですかあ？ ん、
んん♪ エッチで厭らしい脇の汗え♪ 臭くて蒸
れた脇汁う♪ ああん♪ いっぱいじゅるじゅる
してくださいい♪」

紗綾

「んあっ♪ あ、ああ♪ あ、あ、あ、やあ♪ 私
の脇い♪ 一生懸命ペロペロするプロデューサー
さん可愛いですう♪」

紗綾

「いいですよ♪ 氣のすむまでペロペロして……
ん、あん♪ いっぱい紗綾の事味わってください
♪ ん、あ、あん♪ はあ、はあ……♪ ん、ん
ああ♪ ちゅうううってキスマークう♪ やあん
♪ 脇にキスマークう♪ んん♪ プロデュー
サーさんの物になったみたいで……はううう♪
素敵ですよお♪ あ、あ……ああ♪ やっ♪ あ
ん♪」

紗綾

「はあ、はあ……♪ んん♪ これ、私も感じ
ちゃって……おまんこ濡れちゃうう……♪ ん、
やあ♪ ダメえ♪ おまんこ勝手に開いて、ライ
ブ前に貰ったおちんぽミルク溢れちゃうう♪」

紗綾

「はあ、ん、やあっ♪ ダ、ダメえ♪ おちんぽミ
ルク出ちゃやあなのお♪ ん、んん♪ ううう…
…折角のおちんぽミルクう……ライブ記念のおち
んぽミルクうう……あううう……」

紗綾

「や♪ ん、あ、ふえ？ プ、プロデューサーさ
ん？ って、はぶっ！？」

紗綾

「んむうつ！ ん、ちゅ♪ ちゅぷっ！ ん、んん
♪ ん、んあっ！ あ、あむっ！ じゆる♪
ちゅぷっ！ ん……ちゅ♪ ちゅ……れるっ♪
んん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

紗綾

「ぶはあ♪ い、いきなりまたキスなんて……そ、
それも私の脇汗と涎が混じったキスう……♪ ん
ん♪ じゆるる♪ あうう♪ エッチで濃厚な
味い♪ え、えへへ♪ 自分の脇汗を飲んで興奮
するなんて、私も人の事言えないくらい変態さん
ですね♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ ん♪ ねえプロデューサーさん♪
またエッチしてください♪ このまま押し倒し
てライブ成功のご褒美エッチ♪ 私のおまんこに
おちんぽミルクのお替り注いでください♪」

紗綾

「きゃん♪ えへへ♪ 押し倒されちゃいましたあ
♪ がっちり押さえつけられて……んん♪ 身動
き一つ取れませんかよお♪」

紗綾

「はあ、ん、これから私、プロデューサーさんに好
き勝手されちゃうんですね♪ 現役アイドルの汗
だくでくっさいおまんこにおちんぽ入れられて、
獣みたいに犯されて、いっぱいいっぱいエッチし
て膣中出しされて……孕まされちゃうんですね
♪」

紗綾

「ん、いいですよ♪ 来てください♪ このまま紗
綾の欲しがりおまんこにプロデューサーさんの勃
起おちんぽ来てください♪ いっぱい私の子宮に
おちんぽ汁注いでくださあい♪」

紗綾

「ひゃあ♪ あ、ああ♪ くるう♪ おちんぽ、き
たあああ♪ ん、んん！ ぬるってえ♪ 全部
入ってきましたあああ♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ んん♪ えへへ♪ やっぱりお
ちんぽ気持ちいいですよ♪ ん、いいですよ？
そのままパンパン腰動かして気持ちよくなってく
ださい♪ その隙に、私はプロデューサーさん
のお耳をペロペロしてあげます♪」

紗綾

「んゝちゅ♪ れゝゝ……♪ れろれろれろ
ろ♪ ん、ちゅ♪ はぶっ！ んちゅ♪ ん、ん
ん♪ れろれろ♪ んぷうっ！ ん、んん！ あ
ん♪ あ、あ、ああ♪ おちんぽお♪ しゅご
いれすう♪ はあ、はあ♪ 子宮の奥まれきてま
しゅよおお♪」

紗綾

「ん、ちゅ♪ はあ、はあ……♪ 私も、んん♪
負けて、られません♪ ん、ちゅ♪ ちゅ♪ 私
のちっちゃな舌で♪ プロデューサーさんも、ん
ん♪ 感じてください♪ んゝちゅ♪ れゝゝ
♪ れろれろれろれろ♪ れりゅ♪ じゅぶ
ぶっ！ ん、ちゅ♪ ちゅぶっ！ じゅりゅじゅ
りゅ♪ じゅりゅりゅりゅ♪」

紗綾

「んぷっ！ んん♪ やん♪ お耳逃げないでくだ
さい♪ ん、ちゅ♪ んあ、ちゅ、ちゅぶぶ♪
おまんこパンパンしながらあ♪ はぶっ！ ちゅ
♪ れろれろ♪ れゝゝろれろれろ♪ れろ
れろれろれろ♪ ちゅ♪ んちゅ♪ お耳犯され
てえ♪ ちゅ♪ ちゅ……ちゅぶぶっ！ じゅぶ
ぶぶ♪」

紗綾

「ん、ちゅ……チュ、れろ……れろ、れろ……ん
ちゅ♪ 好きい♪ スキスキスキスキ♪ 大好き
れすう♪ んちゅっ、ちゅ……ぶちゅっ……れる
れる♪ じゅる♪ れろ……れろれろれろ♪」

紗綾

「んん♪ んぷぷ♪ ぷはっ！ はあ、はあ♪
え、えへへ♪ お耳舐める度におちんぽビクビク
して♪ ん、あ、ひゃん♪ はあ、ん♪ よっぽ
ど耳を舐められるのが好きなんですわ♪ は
ううう♪ とっても嬉しいですう♪」

紗綾

「じゃあ♪ ん♪ 今度は、反対のお耳も♪ ペロ
ペロしてあげますわ♪」

紗綾

「ん、しよっ、と……♪ あん♪ やあ♪ ダメで
すよお♪ 今おまんこされちゃ♪ あ、あうう♪
ひゃ、ひゃんっ！？」

紗綾

「う、ううう♪ なら、こっちもお返しです♪
ん、はぷっ！ ん、じゅりゅりゅ♪ じゅる！
ん、んんん♪ んあっ♪ あ、あぷっ！？
ん、んん！ ん、じゅる！ じゅぷぷっ！
ん、んんゝゝ♪ れりゅれりゅ♪ じゅりゅりゅ
りゅりゅ♪」

紗綾

「んん♪ んぷうっ！ ぷはっ！ あ、ああ♪ ん
やあ♪ おまんこお♪ おまんこ気持ちいいれ
しゅよお♪ んああ♪ やっ♪ あ、あん♪
はあ、はあ……♪ プロデューサーさあん♪ ん
ん♪ 好きい♪ スキスキい♪ 大好きい♪」

紗綾

「はあ♪ もっとお♪ もっとおまんこお♪ パンパン突いてえ♪ んちゅ♪ ちゅ……れる……れるろろ♪ ちゅ……ちゅぷっ！ んん♪ れ……ろれろろろ♪ ちゅ♪ いっぱいい♪ おまんこが壊れちゃうくらいいっぱい突いてえ♪」

紗綾

「はむっ♪ ちゅ♪ ちゅぷっ！ んん♪ ちゅ♪ れろれろ♪ ちゅ♪ じゅりゅりゅ♪ じゅぷぷぷっ！ んぷっ！ ちゅ♪ れるれる♪ れ……ろれろれろれろろ♪ ぷはあ♪ はあ、好きい♪ ちゅきい♪♪」

紗綾

「ん、あん♪ はあ……♪ しゅきい♪ プロデューサーさあん♪ 大好きです♪ ちゅ♪ しゅきい♪ しゅきしゅきい♪ らいしゅきい♪」

紗綾

「ああ♪ おまんこの中でビクビクして……えへへ♪ 好きって言われるのイイんですね♪ 嬉しい♪ ん、やん♪ ならあ♪ もっと言ってあげます♪」

紗綾

「プロデューサーさん♪ 好きです♪ んん♪ あ、愛してます♪ んああ♪ あううう♪ ん♪ ん、んあ♪ ちゅ♪ れろれろ♪ んちゅ♪ あ、あああ♪ んあああ♪ 好きい♪ あっ♪ あうう♪ 好き好きスキスキい♪」

紗綾

「優しい所が好き♪ 笑顔が好き♪ カッコいい所が好き♪ ほめてくれるのが好き♪ 撫でてくれるのが好き♪ 抱きしめてくれるのが好き♪」

紗綾

「ん、んああ♪ はあ、はあ……♪ 遅い所が好き♪ キスしてくれるのが好き♪ エッチな所が好き♪ おちんぽ大きいのが好き♪ おまんこ気持ちよくしてくれるのが好き♪ 好き♪ スキスキスキスキ♪ 大好きなお♪」

紗綾

「あん♪ んああ♪ 好き♪ ほんとにスキ♪ あ、あ、ああ♪ 世界で一番好きなののお♪ 大好きなお♪ んああ♪ あ、あああ♪」

紗綾

「ん、ん♪ もうらめえ♪ おまんこ気持ちよすぎて……ん、んああ♪ 我慢できないですよおお！ お、お願いれす！ こ、このままいつてえ！ わたひもおまんこイクからあ！ い、一緒にい！ ん、んんん！ おまんこの中にいっぱいいい！ おちんぽミルク出してえええ！！」

紗綾

「あ、あ、あああ！！ も、もうイキましゅ！ お、おまんこイっちゃう！ 凄いのきちゃう！ んああ！ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あああ！！ ひい！ イ、イグ！ い、一緒にイグ！ おまんこイグう！ イグイグイグイグ！ イッぐうううう！！」

紗綾

「ん！ んん！ んひゃああ！ あ、あ、あ
ああ！！ や、やああ！ お、おちんぽおお！
びゆるびゆるってえ……んん！ しゅごいれ
しゅう♪ おちんぽミルクぴゅぴゅ……ってえ♪
お、おおお♪ おまんこお♪ イグのおお♪
イツひやってりゅのおおお♪」

紗綾

「ひやううう♪ お、おおおお♪ しゅ、しゅごい
よおお♪ おちんぽ汁の匂いがここまできてえ♪
んん♪ すん♪ スンスン♪ すうう……♪
はあ……♪ お、おほおお♪ イきゅうっ♪
んん♪ おちんぽ臍中出しされながらのおちん
ぽ深呼吸う♪ とっても素敵でしゅうう♪」

紗綾

「んあ♪ あ、ああ……♪ はあ、はあ♪ ん、ん
ん♪ はふうう……♪ え、えへへ♪ プロデ
ューサーさあん♪ おちんぽミルクのお替り、あ
りがとう」ざいますう♪」

紗綾

「二日でこんなに沢山臍中出ししてくれるなんて、
嬉しすぎて嬉しすぎて……ライブ成功と併せて嬉
しさ倍増ですよお♪」

紗綾

「はふう♪ それにしても、ライブ直後でそのまま
エッチして……えへへ♪ お互い色んなお汁でぐ
ちよぐちよですね……♪」

紗綾

「そうだよ。せっかくだから、シャワールームで身体を洗いっこしませんか？ あそこなら、密室ですし誰にも邪魔されませんよ?。」

紗綾

「お疲れのプロデューサーさんのお背中、いっぱい流してあげちゃいますよ。」

紗綾

「えへへ♪ シャワールームまで誰ともすれ違わなくて良かったですね、プロデューサーさん♪」

紗綾

「ここまでくれば密室ですし、完全防音ですから好きなだけエッチな事できますよ♪」

紗綾

「という事で♪ 早速、私の愛液とプロデューサーさんの精液とでぐちゃぐちゃになったおちんぽ♪ お口でお掃除してもいいですか？」

紗綾

「は、はい……お掃除フェラって言うんですね。そうしてあげると、男の人は喜んでくれるって友達に聞きました」

紗綾

「私……まだまだ、もっと！ もっともーっとプロデューサーさんに喜んで欲しいです！ どう、でしょうか？ 私の、現役アイドルのお口ご奉仕、堪能してくれませんか？」

紗綾

「ん、まあダメって言われてもしちゃいますけどね！ ん、しよっと……お顔の前におちんぽを寄せて……きやつ！？」

紗綾

「す、すごい！ さっきあんなにしたのに、また大きくなってます！ 私でこんなに興奮してくれるなんて……あうあう♪ プロデューサーさんったら私の事好きすぎですよ♪」

紗綾

「すぐ綺麗にしてあげますから、リラックスしながらたっぷり楽しんでください♪」

紗綾

「では♪ あゝむっ♪ んんっ、れろっ、ぴちゃ！
ぴちゃっ、くちゅ、ちゅっぶっちゅぶ、じゅぶ
ぷ♪ んッ……ぴちゃっ、ぴちゃ……ぴちゃ、れ
ろっ……れろ、れろ……はむっ♪」

紗綾

「ふああ♪ おひんぽの匂いい♪ じゅるる♪ ん
ん♪ じゅるるる♪ ん、ちゅ♪ ああ♪ む
わあって蒸れてえ♪ すっごく臭くってえ♪ す
ん……すんすん、ふああ♪ この臭さが堪えない
んですう♪ ずっと嗅いでいたいれすう♪」

紗綾

「んっ、それにプロデューサーひゃんのおひんぽか
ら私のおまんこの味がひて……れっ♪ れろれ
ろれろろろ♪ じゅるるる♪ ちゅぱっ♪
はあっ、はあ、はあ……♪ 苦い精液の味に、甘
じよっぱい汗の味い……んん♪」

紗綾

「ちゅ……ちゅうつ……ちゅう……んあ♪ んちゅ
♪ じゅるじゅる♪ んん♪ とってもおいしい
♪ 私達が交わった、えっちした証い♪ じゅる
る♪ エッチすぎますう♪」

紗綾

「じっくり味わって……んんっ！ 味覚えちゃいま
すね♪ ちゅっ、れろれろ♪ じゅるる♪ ん
ちゅっ♪ ちゅ、ちゅううう♪ ちゅ♪」

紗綾

「って、あれ？ おちんぼの先っぽから、新しいお汁が滲み出てきてますよ？ ん、れろっ、チュ、ちゅ、ちゅ……」

紗綾

「それに、また硬く、大きくなってきた……あっ、お口からはみだしちゃう……んんっ。こらあ……おとなしくしてくださいあい。ん、くちゅっ……ちゅぷ、ぷちゅ、ぷちゅっ、くちゅ！ あ、んあ、んん……あっ♪ んむう……ちゅうっ」

紗綾

「ふふ♪ 完全に勃起しちゃいましたね。大丈夫ですよ、せっかくですからもう一度、私のお口でリラックスして癒されてください♪ はむ♪ じゅる♪ じゅりゅ♪ ちゅ♪ ぐちゅっ！ ぐちゅっ、ぐちゅ」

紗綾

「ん、ん、ん、ん！ んあ、舌を絡めながらあ……れろおっ、ぐちゅっ、ぐちゅっ、れろお！ ずっちゅっ！ ずっちゅっ、ずっちゅっ、ずちゅっ！」

紗綾

「ん……むちゅっ！ ぐちゅっ、ぐちゅっぐちゅっ……んん！ んうっ、んっん！ はあっ、んっあっ♪ あっ、んむう！ ぐっちゅっ、ぐちゅっ、ぐっちゅっ！ はあっ、はあっ、はあ……んむう……ぐっちゅっ！」

紗綾

「あっ！？ んむッ！？ むううっ！？ じゆるる♪ じゅぷ♪ ん、ちゅ♪ れろれろお♪ んぷっ！ じゆる♪ んあ♪ ひゅごく太くてお口の中いっぱいです♪ んっ、んうっ♪」

紗綾

「ビクビクひて……んむっ、ん、ん♪ もうびゅびゅーってしたくなりまひたか？」

紗綾

「えへへ……遠慮はいりませんってさっきも言いまひたよお♪ ちゅ♪ んちゅ♪ じゅ♪ じゅりゅりゅりゅ♪ ちゅ、んちゅっ♪ わたひとプロデューサーひゃんの仲じゃないれすかあ♪ いつでも、ん♪ 精液、出ひていいれすよ♪」

紗綾

「びゅびゅーって好きなだけ出ひてくらひゃい♪ じゅりゅ♪ んちゅ♪ じゅぷぷ♪ ちゅ♪ ん、ん♪ ぷはっ♪ はあ、はあ……♪ 今だけは、ん♪ 我慢しないで、わがままになって♪」

紗綾

「紗綾の唇に、お口に、喉の奥にいっぱい出して欲しいです♪ はむっ！ ん、れろっ……れろっ、れろおっ！ ぐちゅっ！ ぐちゅっ……にゅぷっ、にゅぷぷっ……ちゆるっ！ ちゆるっ、ちゆるうっっ」

紗綾

「ん、ん、ん♪ ん、ん、ん、んんん♪ ん
じゅっ！ じゅるるる！ じゅぶぶっ！ じゅ
りゅりゅ♪ ん、んん♪ ろうぞ♪ おくひにい
♪ いふあいドクドクらしてくださいっ……じゅ
る♪ じゅぶぶっ！ ん、んん！ じゅぶぶっ！
じゅりゅりゅりゅ♪ じゅりゅりゅりゅりゅ
りゅりゅ~~~~~！！！！」

紗綾

「んぐっ！？ んんッ！ ん——っ、んんっ、
んっんっ、んんうっ！ ……んう！ んっ、ん
ん！ えふっ……お、んおっ！ 「ふっ！ ん、
んんんん！？ けっ！ けほっ！ けほけ
ほっ！」

紗綾

「ん、んあっ！ けほけほっ！ しゅ、しゅ「い量
で……ん、んん……ちよっと、多すぎましゅ……
んん！ けほっ！ けほっ！」

紗綾

「あ、ん、ん……っ、けほっ、けほっ……お、お口
の中にまだいっぱい……せいひが溜まって、うま
くひやべれまへん♪ あうう♪ これ、プロデ
ューサーさんの大事な精液、飲んじゃいますね♪
アイドルのごっくん♪ 見てくらひゃい♪」

紗綾

「んちゅ♪ ごく、ごく、ごく……ん、ごきゅっ、
ごく♪ んん！ あは……喉にひっかかって、上
手く飲めないれす♪ ん……ごくっ……。ん……
ぷは♪ はあ、はあ♪」

紗綾

「プロデューサーさん、お口の中、見てください。ん、れ〜〜〜〜……………」
「きゅ♪ はふう♪
おちんぽミルク全部飲んじやいました♪
これって、愛がないとできないことですよ。愛の証ですよ？ えへへ♪」

紗綾

「って、あっ！ すっかり忘れてました！ シャ、シャワーにしましょう！ お掃除フェラに夢中で本来の目的を忘れちゃってました！」

紗綾

「んっ…………ふああ♪ あったかいですね〜♪」

紗綾

「ライブしてエッチした後のシャワー…………あううう♪
最高すぎますうう〜♪」

紗綾

「でも、いっぱいプロデューサーさんとエッチして、おちんぽの匂いつけてもらったのに、それが洗い流されるのは…………ちよっただけ寂しいですね…………」

紗綾

「えへへ♪ 大丈夫ですよ♪ 寂しいのは本当ですけど、私の傍にはいつもプロデューサーさんがいてくれますから♪」

紗綾

「それにまたすぐおちんぽミルク貰えばいいだけですしね♪ って、あううう♪ 我ながらすっごいエッチな子ですよ、今の発言…………」

紗綾

「私、すっかり悪い子になっちゃいましたあ♪ えへへ♪ ファンの皆さんには絶対秘密の、プロデュースーさんだけが知ってる紗綾のエッチな本性♪ 誰にも内緒ですよ？ えへへへ♪」

	トラック5
紗綾	「ただいま戻りましたー♪ って、私達しかいないんですけど♪ はあー♪ 今日は盛りだくさんな一日でしたねー！」
紗綾	「ライブして、エッチして、シャワーを浴びて♪ とんでもなく濃密で、ラブラブな一日……って、えへへ♪ それはちよっと違いますよね♪ だって……」
紗綾	「まだ今日は終わってませんもん♪ えい♪」
紗綾	「えへへー♪ プロデューサーさんって以外と軽いですね♪ 簡単に押し倒せちゃいました♪」
紗綾	「はい♪ そうですよ？ 今日はとことんまでエッチしたい気分なんです♪ ライブで疲れてはいますけど、その分プロデューサーさんから精力をいっぱい貰ってますからね♪ プラマイプラでまだまだ元気いっぱいです♪」
紗綾	「それに、今日はまだどうしてもプロデューサーさんに渡したいものがあるんです」
紗綾	「紗綾の、男の人に見せた事のないとっても大切な所……もう一つの初めて……プロデューサーさんに見て欲しい……貰って欲しいんです♪」

紗綾

「ん、えへへ♪ パンツ脱いじゃいました♪ どうですか？ 見えますか？ 私の……現役アイドル紗綾の……お尻のあゝな♪」

紗綾

「小さい頃お母さんにしか見せたことのない、正真正銘の処女アナル♪ すごく恥ずかしいですけど、いつかプロデューサーさんにあげたいなと思って、毎日綺麗にしてたんです♪」

紗綾

「今日は私の夢が叶った特別な夜ですし、捧げるなら今しかないかなって思って……ど、どうですか？ 私のアナル、貰ってくださいますか？」

紗綾

「は、はい♪ 嬉しいですよ♪ 正直引かれるかなって思ってたんですけど……あううう♪ アナル処女を捧げられることがこんなに嬉しいなんて♪ えへへ♪ 大好きです♪ プロデューサーさん♪」

紗綾

「それじゃあ、このまま私が上になっておちんぽ入れますから、じっとしててくださいね♪」

紗綾

「ん、まずはおまんこから垂れてる愛液でお尻の穴を濡らして……ひやう！？ あ、い、いえ！ 何でもないです！ ちょっとビックリしてお尻ヒクヒクしただけですから」

紗綾

「よくお尻の穴に塗り込んでえ……ん、しょ……ん……しょ……指先を入れて……むにゅむにゅ……むにゅむにゅ……はうう♪ お尻の皺が開いたり縮んだりい♪ ああん♪ エッチすぎますよお♪」

紗綾

「んっしょ♪ んっしょ……っと……はい♪ 愛液ローション準備オツケーです♪ ではおちんぽ入れますねっ♪」

紗綾

「ん、んん!? ん! これ、キツイい! ん! で、でもお……うう! 大好きなおちんぽだからあ♪ ん! んん! ゆっくりなら……ん! んぐううっ! ひゃわああ!!」

紗綾

「んひい! う、ううう……♪ はあ、はあ♪ んん♪ あうあううう♪ お、お尻……おちんぽ、入ったあ♪」

紗綾

「え、えへへっ♪ よ、良かったあ♪ こ、これでえ♪ 私の全部……お口もおまんこもお尻の穴も、大好きな人に捧げられましたあ♪ んあああ♪ 凄いですう♪ 凄く幸せですよお♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ プ、プロデューサーさん♪ どうですか? 現役アイドルのアナルの入れ心地は♪ 世間では清純天使で通ってる、私の、んん♪ 紗綾の一番エッチで厭らしい、禁断の穴、ですよお? 気持ちいいですか?」

紗綾

「はあ、んん♪ プロデューサーさんだけのエッチ穴です♪ って、えへへ♪ そんな凝視されちゃうと流石に照れちゃいますよぉ♪」

紗綾

「って、はわわ！ こ、これ！ 騎乗位の体勢でアナルに入れると、おまんこ丸見えになって……あううう♪ これは想像以上に恥ずかしいですう……」

紗綾

「ん、んん♪ でも、これなら、ん♪ おちんぽでアナル、視線でおまんこを堪能できますしね♪ ほら、こうやっておまんこを……くぱぁっ♪ えへへっ♪ おまんこハート型に開いちゃいましたっ♪」

紗綾

「子宮の奥からおまんこ汁溢れて、恥ずかしすぎておかしくなりそうですけど……今日は私がご奉仕する夜ですから、好きなだけ私のアナルとおまんこ、楽しんでくださいね♪」

紗綾

「ん♪ んん♪ あっ！ んああ♪ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、ああ♪ ううう♪ これは、あん♪ 想像以上に気持ちいいですう♪ あ、ああ♪ ひゃっ♪ あ、ああん♪ はあ、はあ♪ あううう♪ ん、んん♪ はっ、あ……はああっ……ふうっ♪ んん♪」

紗綾

「想像だと、んん♪ もっと、痛いと思ってまし
た、けどお♪ あん♪ 全然そんな事なくってえ
♪ むしろ♪ あううう♪ アナル気持ちいいで
すうう♪ ん、んん♪」

紗綾

「これも、愛のおかげなんでしょうか？　ん、んん
♪ 私のアナルも、大好きなおちんぽ欲しがって
たみたいに、んん♪　きゆうきゆう吸い付いてえ
♪　お、おおおお♪　ん、ひい♪　お、お、お、
おおお♪　ら、らめれすう♪　これ、吸い付きす
ぎて、刺激強い！　ん！　んん！！」

紗綾

「ひやああ！！　そ、それえ！　おちんぼパンパン
 されるとカリがあ！　あ、あ、あ、あ、あ、あ、
 あ、ああ♪　おちんぼのカリがお尻の入口捲つ
 てえ♪　こ、これ、変えられちゃう♪　おちんぼ
 の形にお尻変えられちゃいましゅう♪」

紗綾

「はっ！ はっ！ はっ！ はひゅ！ んあっ！
や、やああ♪ お、おちんぽしゅごいい♪ おち
んぽお♪ 気持ち良くてえ♪ アナルぶぴゅぶ
ぴゅ喜んじやいますよおお♪」

紗綾

「こ、ここお♪　んあ♪　あつ、ああ……♪　お尻の穴あ♪　エッチの為の穴じゃないのにい♪　ん、んん♪　はうう♪　感じちゃってえ♪　こんな下品なアイドルう♪　んああ♪　らめえ♪　アイドル失格になっちゃうう♪　ダメになっひやううう♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ んん♪ こ、このことは、んん♪
〜人だけの、やん♪ 秘密♪ ですよ？ ん、
あうう♪ アイドルのアナルが弱い、なんてえ♪
とんでもないスキヤンダル、なんですからあ
♪」

紗綾

「ん、んん♪ あっ♪ あ、あ、あ、あ♪ お、
おちんぽ、そんな奥まで突いて！ はっ！ は、
はううう♪ ん、んんん！！ んあっ！
あああ♪ お、お尻が持ち上がって、ふあああ！
腰、浮いちゃいますう！ ん、んんんん！」

紗綾

「はっ！ はっ！ はっ！ はっ！ んん♪
やあ！ お、おまんこも気持ちよすぎてパクパク
開いて……！ んあっ！ やん♪ だ、だめ！
アナル突かれながらおまんこ吹いちゃう！ おま
んこイっひやううう！！！」

紗綾

「んっ！ んん！ だ、だめえ！ ほ、本当にイ
グ！ こ、このままプロデューサーさんの顔にお
まんこ汁吹いちゃう！ や、やらあ！ 恥ずかし
いのにい！！ ん、んん！！ が、我慢できな
い！ おまんこ我慢できないのおお！！！」

紗綾

「あ、あ、あ、あああ！！ アナルセックスしなが
らおまんこイグう！ おまんこイっひやうう！
アナルイグ！ おまんこイグウ！ アナルで、ん
んん！！ イっぐうううう！！！」

紗綾

「ひやううううう！　ん、やあああ！　おまんこイくうううう！　おまんこからお潮吹いてえ！　ん、んん！　プロデューサーさんの顔にかかってましゅう♪　おっほおお♪　お、おおお♪　恥ずかしいけどお♪　でも気持ちいいのおお♪」

紗綾

「ん、んん♪　んあああ♪　プロデューサーさあん♪　飲んでくらしやいい♪　おまんこのお潮全部飲んでえ♪　ん、んあああ♪　はあ、はあ……♪　じよろろろ……っていっぱい♪　はううう♪　噴水みたいに出ひやってえええ♪」

紗綾

「はあ、はあ♪　はううう♪　んん♪　やあ♪　ごくごく飲んでくれて……嬉しいですう♪　プロデューサーさあん♪　紗綾の味い♪　覚えてくださいい♪」

紗綾

「ん、はあ、はあ……♪　ん、あ、あん♪　はふうう……だ、大分落ち着いてきた……かな……って、え、えへへ♪　プロデューサーさんのお顔、オマンコ汁でびちよびちよですね♪」

紗綾

「今お顔舐めて綺麗にしてあげますからね♪　はあ……む♪　ちゆりゆ♪　ちゆ♪　れ……♪　れろれろれろ♪　ん、んん♪　ちゆ♪　ちゆるる♪　ちゅぱっ♪　はあ、はあ……♪　えへへ♪　とってもエッチな味♪」

紗綾

「ん、ちゅ♪ れろれろ……んん♪ 私が、じゅるる♪ んゝちゅ♪ 綺麗にい♪ じゅるる♪ じゅるるるるゝゝ♪ じゅぱっ！ はあ、ん♪ れゝゝろれろれろ♪ ちゅ、ちゅ♪ ってひう！？」

紗綾

「んにゃあ！？ プ、プロデューサーひゃん！？ きゅ、急にまたそんな！ あ、やっ！ だ、だめ！ イったばかりなのにまたアナル責められたら！ お、お、おお、お、お、お、お、お……！」

紗綾

「お、お尻いい！ はうう！ お、おおお♪ こ、これりやめえ♪ 捲れひやう♪ アナル裏がえっちやいましゅう♪ お尻の穴おかひくなっひやいましゅううう♪」

紗綾

「んやああ！ あ、あ、あああ！！ プ、プロデューサーさん！！ こ、これ以上は、ん、んん！ こ、怖いでしゅ！ 戻ってこれなくなりそうで、あ、ああ！ こ、怖くなっちゃいますよおお！！」

紗綾

「って、んむう！！ ん、んんゝゝゝ！ ちゅ♪ ちゅぷっ♪ んゝゝゝ♪ ちゅ……れる……ちゅ……はぷっ、ん、んんん！！ ちゅ♪ ……ちゅぷっ！ れろれろ……れろれろれろれろ♪ んちゅ♪」

紗綾

「んん♪ はぷっ♪ やあん♪ プロデューサーさん♪ もっと強く抱きしめてください！ 私がどこか行っちゃわないようにい！ ん、んん♪ アナルエッチでおかしくならないようにい！！」

紗綾

「はむっ！ んん♪ ちゅ♪ ちゅるるる♪ ちゅ……ちゅ♪ はふっ！ んん♪ スキイ♪ スキススキスキい♪ 大好きれすう♪ ん、んん！ ちゅぷっ！ んるるちゅ♪ れろれろ……愛ひてまひゅうる♪ ん、んん♪」

紗綾

「もっろおお♪ ちゅ♪ ちゅ♪ もっろ一つにいれるるるれろれろれろ♪ んちゅ♪ おっぱいも潰れてなくなっちゃうくらいい……！ んちゅ♪ 強く抱いてくらひやいい♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅううう♪」

紗綾

「んちゅ♪ れろれろ♪ ちゅ♪ ちゅ♪ ぷはあっ！ あ、あ、あ、あああ！！ んん♪ んああ♪ お、おおお♪ おちんぽイイ♪ おちんぽ凄くいいれすうう♪ おちんぽお♪ プロデューサーさんのおちんぽおお♪」

紗綾

「んん！ お、おちんぽおお♪ おちんぽおちんぽおちんぽおちんぽおお♪ 大好きなおちんぽお♪ いっぱい欲しいんれすう♪ お、おおお！！ おちんぽ好き！！ おちんぽおちんぽおお♪」

紗綾

「アナルセックスでおちんぼの形覚えさせて
ええ!!! 私のおまんこもお尻もお!!! はあ、
はあ……♪ 全部プロデューサーさんのおちんぼ
専用にい♪ このおちんぼしか入らないようにし
てえ♪ プロデューサーさんのおちんぼ大好きな
アイドルにしてくらしやいい♪」

紗綾

「ん、んあああ♪ お尻の穴でおちんぼ膨らん
でええ♪ はあ、はあ……♪ ひやううう!
イ、イってくらひやい♪ このままお尻にい♪
アイドルの下品なピンクアナルにい♪ 精液いっ
ぱい♪ プロデューサーさんのおちんぼミルクで
お尻おまんこ孕ませてくだひやいいい♪」

紗綾

「んああ♪ さあ! おちんぼぴゅっぴゅ! おち
んぼぴゅっぴゅうう! おちんぼぴゅっぴゅ!
おちんぼぴゅっぴゅううううううう!!」

紗綾

「ひやああああ!!! 出ましたあああ♪ おちんぼ
ミルクうう♪ お尻にいい♪ アイドルのお尻の
中にいい♪ あ、あ、ああああ♪ んお
おおおお♪」

紗綾

「はっ、はっ、はっ……はひゅうう……♪ お、
おおお……♪ お尻いい♪ きもひいいの
がああ……いつふあい溢れてええ♪ あううう……
あうあううう……♪ お、おおお♪ お尻い
♪ 気持ちいいれしゅううう♪」

紗綾

「あ、やん！ ダ、ダメ……聞かないでください！
こんな、下品なお尻の音……や、やらあ……恥ずかしいですよおお……♪」

紗綾

「はあ、はあ……ん、ん♪ はあ、はあ、はあ……はふう……♪ こ、これえ♪ 本当に、ん♪ 凄いエッチ、でしたあ……♪ まさかお尻の穴ですらだけでこんなにも気持ちいいなんて……♪ ちよっと病みつきになっちゃいそうですう♪」

紗綾

「えへへ♪ プロデューサーさんもお疲れ様でした♪ さすがにもうおちんぽも限界みたいで、ちっちゃくなっちゃいましたね♪」

紗綾

「でも、またお掃除フェラしたら大きくなったりして……♪ って、えへへ♪ 冗談ですよ冗談♪ これ以上エッチしたら、気持ちよすぎて、私の方が先に失神しちゃうかもしれませんし♪」

紗綾

「今日は十分すぎるほど沢山エッチしましたからね♪ 一日のエッチ回数なら今までで最高記録ですよ？ きっと♪」

紗綾

「えへへ♪ そう考えるとやっぱり今日は特別な一日でしたね♪ 朝から晩までずう……とプロデューサーさんに独り占めされてた気分です♪」

紗綾

「でもいいんですよ？ ライブみたいなイベント中はみんなのアイドルですけど。それ以外の私はプロデューサーさんだけの紗綾なんですから♪ 好きだけ独り占めしてくださいね♪」

紗綾

「にゃふう♪ プロデューサーさん♪ だるるい
好き♪ えへへ♪」

紗綾

「ふえええ！！？？ え、エッチな事を耳元で囁かれながらシコシコして欲しい……って……あうう……あうあううう……急にそんな事言われてもお……」

紗綾

「え？ あ、いや……まあ別に嫌じゃないですし、珍しくプロデューサーさんからのおねだりですもんね……はい、分かりました♪ 私に出来る事なら何でもしてあげちゃいます！」

紗綾

「それじゃあ早速……まずはこっちのお耳から……」

紗綾

「お・ち・ん・ぽ♪ おちんぽおちんぽお♪ つて、わわ！ プ、プロデューサーさん！？ 体跳ねちゃって……だ、大丈夫ですか？」

紗綾

「あ、喜んでくれてるだけ？ えへへ♪ 嬉しいです♪ ならこの調子で続けますね？」

紗綾

「お・ち・ん・ぽ♪ おちんぽ♪ おちんぽ♪ おちんぽお♪ おちんぽシコシコ♪ おちんぽシコシコ♪ エッチなおちんぽ♪ 厭らしいおちんぽ♪ おっきなおちんぽ♪ 可愛いおちんぽ♪」

紗綾

「はあ、はあ……♪ ん♪ おちんぽお♪ おちんぽおちんぽお♪ 私の……私だけのおちんぽお♪ スキイ♪ スキスキイ♪ おちんぽ大好きい♪」

紗綾

「プロデューサーさんのおちんぽお♪ 遅いおちんぽお♪ はあ、はあ♪ あん♪ おいしいおちんぽ♪ デザートおちんぽお♪」

紗綾

「おちんぽお♪ おちんぽおちんぽお♪ おちんぽ大好きい♪ おちんぽおちんぽおちんぽおちんぽおお♪ んん♪ しゅきい♪ 大好きですう♪ んんちゅ♪」

紗綾

「ん？ ふえ？ もっと厭らしく言っで欲しい……ですか？ わ、分かりました……アイドルが絶対口にしないような、エッチな言葉……言っちゃいますね？」

紗綾

「はあ、はあ……んん♪ ち・ん・ぽ♪ ちんぽ♪ ちんぽ♪ ちんぽ♪ ちんぽ♪ ちんぽ♪ ちんぽ♪ ちんぽ♪ ちんぽ♪」

紗綾

「ん、んん♪ これえ♪ 何だか言う度に興奮してきちやいますう……♪ はううう♪ はあ、はあ……♪ んん♪ あうう♪ ち・ん・ぽお♪」

紗綾

「ちんぽ♪ ちんぽお♪ ちんぽちんぽお♪ ちんぽちんぽちんぽちんぽお♪ ちんぽちんぽちんぽちんぽちんぽお♪」

紗綾

「びちよびちよちんぽ♪ くちよくちよちんぽ♪
エロエロちんぽ♪ とろとろちんぽお♪」

紗綾

「ちんぽシコシコ♪ ちんぽシコシコお♪ ちんぽ
♪ ちんぽお♪ ちんぽ♪ ちんぽおお♪」

紗綾

「お・ま・ん・こ♪ おまんこおまんこおまんこお
まんこお♪ おまんこ♪ おまんこ♪ おまんこ
♪ おまんこお♪」

紗綾

「アイドルおまんこ♪ とろとろおまんこ♪ スケ
べおまんこ♪ ツルツルおまんこお♪」

紗綾

「はあ、はあ……♪ んん♪ おまんこ♪ おまん
こ♪ おまんこ♪ おまんこお♪」

紗綾

「ん、ああん♪ おまんこからお汁いっぱい出てき
ちやいますう♪ あうう♪ あうあううう♪
ただ話してるだけでこんなエッチな気分になっ
ちやうなんて……」

紗綾

「ん、んん♪ おまんこお♪ おまんこおまんこお
まんこおまんこお♪ んん♪ おまんこおまん
こお♪ おまんこおまんこお♪」

紗綾

「ほくら♪ どうですか♪ プロデューサーさん
のおちんぽシコシコしながらおまんこって囁く
とお♪ 本当におまんこが濡れてきてえ♪ エッ
ちな気分になってきちやうんです♪」

紗綾

「はふうううう♪ エッチなおまんこお♪ おまんこ濡らしながらあ♪ んん♪ おちんぽシコシコお♪ おちんぽシコおお♪ んん♪ おちんぽおお♪ おちんぽおちんぽお♪」

紗綾

「はあ、はあ……いっぱい感じてください♪ おちんぽシコシコされてえ♪ ん、んん♪ おちんぽお♪ おちんぽおちんぽおお♪ おちんぽおお♪」

紗綾

「好きです♪ おちんぽ大好きですう♪ おまんこにおちんぽ欲しくて欲しくてえ♪ ちんぽおお♪ ちんぽ欲しいですよおお♪ ちんぽちんぽちんぽちんぽおお♪」

紗綾

「大好きなちんぽから出るプロデューサーさんの孕ませミルクう♪ おちんぽミルクう♪ おちんぽ汁う♪ ちんぽ汁う♪」

紗綾

「そろそろ出ちゃいますか？ シコシコされてちんぽ汁びゅびゅううって出しちゃいますか？」

紗綾

「はい♪ 構いませんよ？ 遠慮せずこのまま出しちゃってください♪ さんはい♪」

紗綾

「びゅううう♪ びゅびゅびゅううう♪ びゅびゅびゅびゅうううううううう♪」

紗綾

「はううううい♪ プロデューサーさん♪ お疲れ様でしたううう♪」

紗綾

「どうでしたか？ 現役アイドルの囁き淫語手コキは？ 気に入ってくれましたか？」

紗綾

「もしまたして欲しくなったらいつでも言うてくだ
さいね♪ んっちゅ♪」

◇トラック7…おまけ しゅきしゅきループ

◇トラック8…おまけ 左耳舐めループ

◇トラック9…おまけ 右耳舐めループ

◇トラック10…おまけ 両耳舐めループ

◇トラック11…おまけ おちんぼ淫語塗れの右耳舐めループ

◇トラック12…おまけ おまんこ淫語塗れの左耳舐めループ

◇トラック13…おまけ おちんぼおまんこ淫語塗れの両耳舐めループ

◇トラック14…おまけ しゅきしゅき両耳舐め3WAYループ

◇トラック15…おまけ しゅきしゅき淫語両耳舐め3WAYループ